



貨幣流通において市場と価値を創造し続ける
真のグローバル企業を目指して

日本金銭機械株式会社

(証券コード:6418)

2015年3月期 第2四半期 累計実績

2014年11月



2015年3月期 第2四半期実績と通期予測、
中期経営計画の重点施策の進捗状況、
および、8月末に買収を完了いたしました米国FL社の件、
さらに、各分野のトピックスなども交えて、ご説明いたします。

2015年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

単位:百万円 

前年同期比、計画比でともに減収、減益(営業利益段階)

	2014/3 2Q 累計実績	2015/3 2Q 累計実績	前年同期比		2015/3 2Q 累計計画	計画比	
			率	増減額		率	増減額
売上高	13,996	13,324	-4.8%	-672	14,000	-4.8%	-676
北米地域	5,134	4,120	-19.8%	-1,014	5,000	-17.6%	-880
欧州地域	3,915	3,598	-8.1%	-317	3,500	+2.8%	98
遊技場向機器	3,954	4,412	+11.6%	458	4,450	-0.9%	-38
国内金融流通	863	1,192	+38.1%	329	1,050	+13.5%	142
アジア地域	128	-	-	-128	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	981 (7.0%)	723 (5.4%)	-26.3%	-257 (-1.6%)	900 (6.4%)	-19.7%	-177 (-1.0%)
経常利益 (経常利益率)	1,102 (7.9%)	1,057 (7.9%)	-4.0%	-44 (-)	900 (6.4%)	+17.4%	157 (-1.5%)
当期純利益 (当期純利益率)	671 (4.8%)	760 (5.7%)	+13.3%	89 (+0.9%)	550 (3.9%)	+38.2%	210 (+1.8%)

(注) 前期まで、中国市場向け売上を『アジア地域』として表示してきたが、進行年度より米国子会社での計上に変更

平均為替レート

米ドル	95.90円	102.22円	+ 6.32円	103.00円	- 0.78円
ユーロ	125.80円	139.84円	+14.04円	140.00円	- 0.16円

1

2015年3月期 第2四半期累計の業績は、売上高は、国内事業が、遊技場向での新製品効果や金融流通分野での受注回復などもあり増収となったことや為替が円安基調で推移したことによるプラス要因がありましたものの、北米地域においては新規カジノのオープニングが減少傾向であり、リプレース事業と金融OEM向事業も低調に推移いたしました。また、欧州地域では、計画を上回っておりますが、前年同期比では流通向の大口受注の反動減があり、海外事業全体としては減収となり、前年同期比、4.8%減少の133億24百万円となりました。

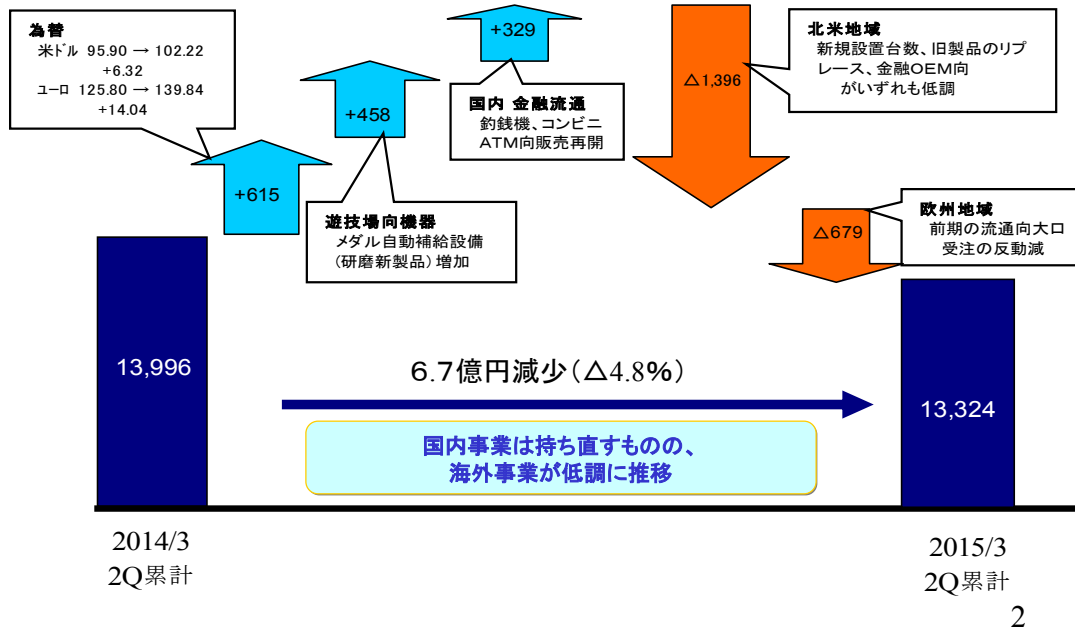
利益面では減収に加え、競合他社との受注獲得競争が激しくなり収益性を低下させたことや販管費の増加もあり、営業利益は前年同期比26.3%減少の7億23百万円となりました。

一方、営業外損益では、フューチャーロジック社の買収関連費用の一部を計上しましたが、上半期決算期末に為替レートが円安に進行したため、外貨建資産の時価評価による為替差益が4億53百万円計上されたこともあり、経常利益は計画を上回りましたものの、前年同期比4.0%減少の10億57百万円となりました。

第2四半期累計純利益は税金費用の減少もあり計画を上回り、かつ前年同期比13.3%増加の7億60百万円となりました。

売上高増減要因（前年同期比）

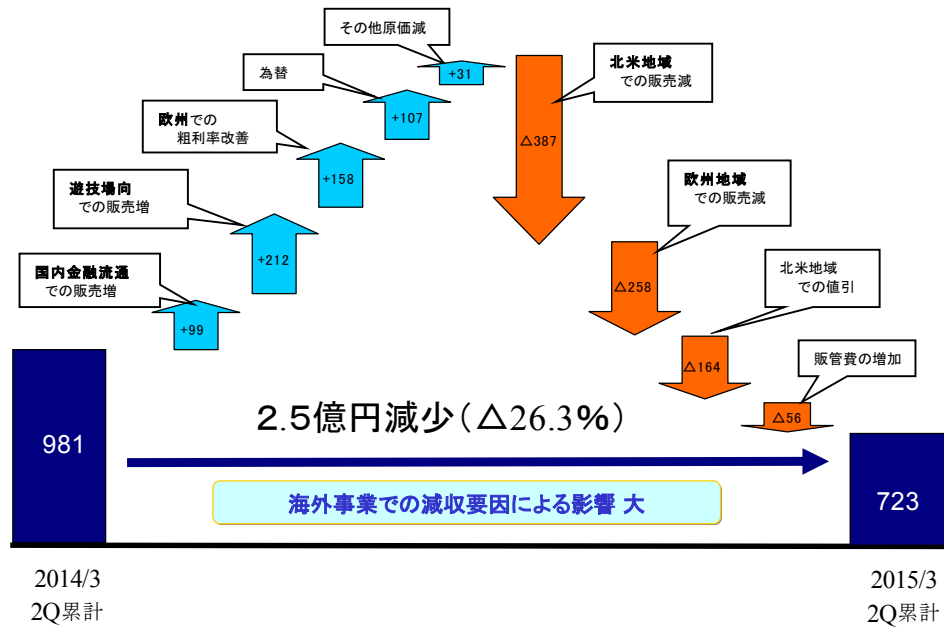
単位: 百万円 



売上高の前年同期比での増減要因としては、為替要因がプラスに働いたことに加えて、国内事業も前年同期実績を上回って推移いたしましたが、海外事業が低調に推移したことが影響しております。

営業利益増減要因（前年同期比）

単位：百万円 



営業利益の前年同期比での増減要因としては、海外市場での減収や市場競争の激化による販売価格の低下による要因が大きく影響しております。

北米地域

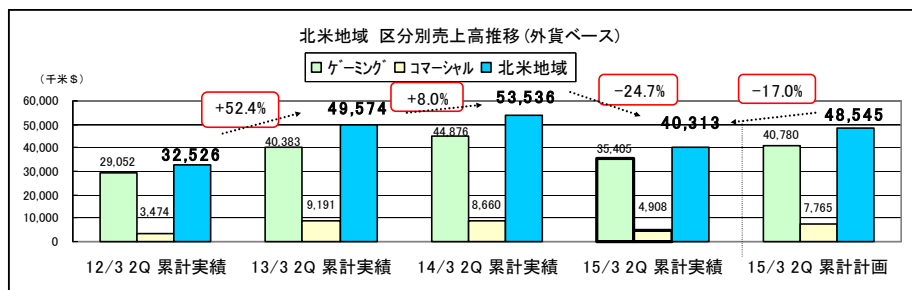
第2四半期累計 業績推移



	2013/3 2Q 累計実績	2014/3 2Q 累計実績	2015/3 2Q 累計実績	2015/3 2Q 累計計画	増 減	
					前年同期比	計画比
外貨売上高(千米\$)	49,574	53,536	40,313	48,545	-24.7%	-17.0%
邦貨売上高(百万円)	3,955	5,134	4,120	5,000	-19.8%	-17.6%
平均為替レート(米\$)	79.78	95.90	102.22	103.00	+6.32	-0.78

【概要】

ゲーミング部門では、新規設置台数が少なく、また1Qにおける記録的な寒波によるカジノへの来客減により、カジノの収益悪化で旧製品のリプレースも前年同期比、計画比で低調な推移、コマーシャル部門も金融OEM向が1Qにおける生産拠点の移転に伴い、低調となる。



4

北米地域では、前期の業績を牽引した新規のカジノオープニング、旧製品のリプレース事業、金融OEM向の3項目の売上が、上半期はいずれも振るわず、外貨ベースでは前年同期比24.7%、計画比でも17.0%のマイナスとなりました。

進行年度の新規設置台数は、計画策定時点で前年度より約2万3千台少ない3万5千台を見込んでおりましたが、現状は3万台を割り込むような状況になっております。

更に、今年の冬に中西部から東海岸を襲った記録的な寒波による客数の減少からカジノの収益が下がり、設備更新予算が抑えられているという影響も受けて、リプレース需要も減退いたしました。

以上のように、進行年度は北米のゲーミング市場の経営環境は厳しく、販売価格は低下傾向にあります。

コマーシャル部門でも、金融OEM先での生産拠点移転の影響が、1Qで発生しており、販売低調の要因となりました。

◇カジノの新規オープニングについて

米国諸州は、税収増の効果的手段としてのゲーミング導入を段階的に進め、特に10数年前まではカジノ施設が極めて限定的であった東部諸州の各地で、陸上設置型カジノ、競馬場併設型カジノ、スロット・パーラーカジノ等が既に設置されたり、また今後設置されようとしている。

具体的には、2015～17年にかけて、マサチューセッツ、ニューヨーク、メリーランド、ペンシルベニアなどの地域を中心に、東部アメリカ諸州において新規カジノのオープンが計画されておりますが、既に、一部の州や地域では、供給過剰となっているようであります。



5

北米地域セグメントでのトピックスについて数点ご紹介いたします。

1つめとして、北米地域で大きなファクターとなるゲーミング市場での新規オープニングの動きについて、ご説明いたします。

リーマン・ショック以降の米国諸州は、税収増の効果的手段としてのゲーミングの導入を進め、特に10数年前まではゲーミング施設が極めて限定的であった東部諸州のあちこちで、陸上設置型カジノ、競馬場併設型カジノ、スロット・パーラーカジノ等が既に設置されたり、また今後設置されようとしております。

今後も、2017年頃までにかけては、マサチューセッツ、ニューヨーク、メリーランド、ペンシルベニアなどの地域を中心に、東部アメリカ諸州において新規カジノのオープンが計画されております。

◇アメリカのカジノ市場で、地域間競争が激化

ニュージャージー州のアトランティックシティは何10年間もの間、ネバダ州に次ぐ第2のカジノ都市で、「東のラスベガス」と呼ばれていた。

しかし、今年の初めには12ヶ所あったカジノが、9月末時点で、4つのカジノが閉鎖もしくは年内での閉鎖を発表。原因としては、顧客の約90%がマイカーでの移動であり、先ほど【トピックス1】でご説明いたしましたペンシルベニア州やメリーランド州といった近隣の諸州のカジノ解禁で激しい競争に直面しているためと考えられており、実際に2006年度に52億ドルであったカジノ収入が、2013年には28億ドルにまで大きく減少しております。

それぞれの州政府からすれば、自らの対象エリアに住む人々が、近接する外部の州のカジノ施設を訪問し、お金を落とす状況を看過することができず、その結果、州政府が設備増強合戦を繰り広げているという状況にあります。



◇カジノ機器業界で相次ぐ大型買収

イタリアの宝くじ販売機器の大手メーカーであるGTECH社が、7月16日、アメリカ市場で約43%の市場シェアを持つ世界最大のカジノスロットメーカーであるIGT社(米国)を買収することを発表。

続いて、8月1日にアメリカの宝くじ販売機器の大手メーカーであるScientific Game(サイエンティフィック)社は、IGT社と同じく米国のカジノスロットの大手メーカーであるBally Technologies社を買収すると発表。

サイエンティフィック社は、昨年1月にもカジノスロットメーカーのWMS社を買収しており、これら一連の買収によりサイエンティフィック社は米国内のカジノスロット市場において約27%のシェアを獲得することになる。これは、先のGTECH社に続く第2位の勢力である。

6

トピックス2として、業界情報を2件取り上げております。

ゲーミング収益が停滞し始めていた一方で、税収増を狙った州政府がここ数年、カジノ数を増加させる政策をとってきたことで各州での濃淡が見られ、地域間での競争が激化してきております。

かつては「東のラスベガス」と呼ばれて第2のカジノ都市として栄えていたアトランティック・シティが先ほどのページで取り上げましたペンシルベニアやメリーランドといった近隣地域での新規のカジノのオープニングなどにより経営環境が厳しくなっているというもので、税収や雇用の確保に向けて、州の間での競争が激しくなっているようであります。

2つめは、カジノ機器業界で相次いだ大型買収の件であります。

7月中旬にイタリアのGTECH社がシェアトップ企業であるIGT社を、続いて昨年1月に既にWMS社を買収していたサイエンティフィック社が8月1日にバリー社を買収したことで、カジノスロットメーカーの上位3社が全て、他の会社の傘下に入ることになりました。

かつてないほどの急激な業界構造の変化のなかで、今後も各社が生き残りを掛けた戦略をとっていくものと考えております。

『G2Eラスベガス2014』に出展

9月30～10月2日(米国現地時間)の3日間、ラスベガスで開催された世界最大のゲーミング関連の展示会である『Global Gaming Expo 2014 (略称、G2E)』に出展いたしました。
 今回は出展者数が約450社、来場者も約2万7千人にのぼった模様です。
 弊社は『CONNECTION』というテーマを掲げ、2台のテーブルゲーム、デジタルサイネージ、システムプロダクトなどが目立つ、競合他社とは一線を画す展示構成で、また今回初めてDNAシステムをお披露目いたしました。

DNA(Dynamic Network Applications)

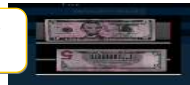


DNAとは、リアルタイムで周辺機器を管理し、カジノ運営に貢献できるネットワークシステムであります。
 最新のテクノロジーを活用し、弊社の周辺製品のそれぞれの良さを活かし、他社品との差別化を図ることができるシステムで、カジノータルでのビジネス提案が可能となります。
 カジノにとってはリアルタイムでの管理や営業面でのさまざまな仕掛けができるようになります。
 システム事業に参入することは、弊社グループにとって重要なステップであり、競合他社との差別化を図る戦略であると考えております。

来店頻度、プレイ時間、消費金額、誕生日等々のプレイヤーの個人データに応じて、プロモーション・チケットを発行



IVIZIONの映像を取り込めるという機能を活かし、投入された紙幣やチケットの確認



新札等のソフトのダウンロードがリモートで可能に

紙幣BOXの収納状況の確認が可能に

米国現地時間で9月30日～10月2日の3日間、ラスベガスで開催された世界最大のゲーミング業界の展示会である「Global Gaming Expo2014」での出展内容についてご報告いたします。

今回弊社グループは、『CONNECTION』というテーマを掲げ、競合他社とは一線を画し、テーブルゲーム、デジタルサイネージ、システムプロダクトなどを展示し、さらに、今回初めて次世代のビジネス・モデルとして想定しているDNAを初めてお披露目いたしました。

これは、カジノで利用されている各機器の情報を一元管理できるシステムであります。

現金の入金情報、すなわちプレイ状況をリアルタイムで分析して顧客サービスの向上につなげたり、機器のメンテナンスや、現金回収の省力化に資するものであり、生き残りを掛け、熾烈な競争を続けるカジノホールの経営力強化のためのツールとの位置付けであり、カジノ向けセールスにおいては、フューチャーロジック社の買収とともに、これまでの、紙幣の真偽鑑別技術一本足からの脱却を目指してまいります。

欧州地域

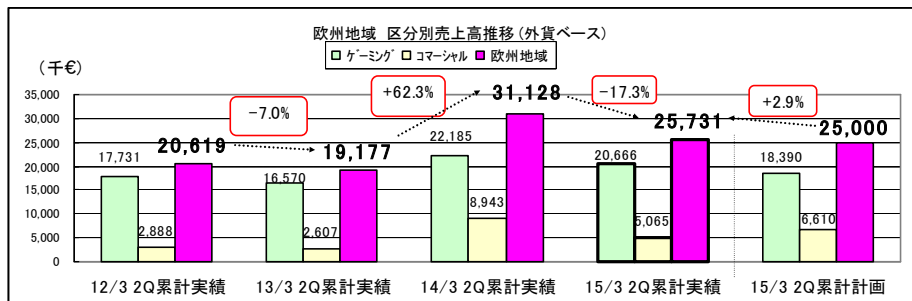
第2四半期累計 業績推移



	2013/3 2Q	2014/3 2Q	2015/3 2Q	2015/3 2Q	増減	
	累計実績	累計実績	累計実績	累計計画	前年同期比	計画比
外貨売上高(千€)	19,177	31,128	25,731	25,000	-17.3%	+2.9%
邦貨売上高(百万円)	1,989	3,915	3,598	3,500	-8.1%	+2.8%
平均為替レート(€)	103.76	125.80	139.84	140.00	+14.04	-0.16

【概要】

ゲーミング部門では前期から引き続き、リサイクルユニットの販売が好調に推移している。
 コマーシャル部門では、前年同期に計上された流通市場での大口案件(4.2M€)の反動減の影響。



8

欧州地域のゲーミング市場では、ドイツ市場での規則変更もあり厳しい状況となっており、前年同期比では減収となりましたが、前期の業績を牽引した紙幣還流ユニットの販売が進行年度も好調に推移し、計画を上回って推移しております。

コマーシャル部門では、主に製品の売上構成の変動によるものであり、売上高は大口受注先への納入が一段落したために減少しておりますが、その分、利益率は向上し、今年度計画を上回る水準で推移しております。

◇新製品情報

DBV シリーズ



−10℃～+60℃の気候条件、また雨対策も施されており、弊社の弱かった屋外設置が可能な機能が特徴であり、自販機、駐車場、各種キオスク向けとして、期待。

又、ロシア市場で搭載されている唯一のBVである競合他社品以上の犯罪防止機能を搭載しており、市場の評価は良好である。
2015年度に、ロシア市場向けなどで展開予定。

◇『ドイツ・ゲーミング法の改正』について

- ・2012年12月1日に、ゲーミング規制に係る法案が可決されている。
- ・現在は2017年の法案施行までの5年間の移行期間に既に入っている。
- ・この規制により、ドイツ市場が縮小する可能性があります。

欧州地域セグメントでのトピックスについて、2点ご紹介いたします。

1つめとして、自動販売機などの屋外設置機器向けのユニットの製品化が完了いたしました。

この製品は、マイナス10℃～+60℃の気候条件、また雨対策も施されており、屋外設置が可能な機能が特徴であり、披露した客先での反応も良好のようであります。

この製品は主に欧州の自販機向市場をターゲットとし、地域的にはロシアやイタリアで既に採用に向けた動きを開始しております。

2つめとして、ドイツ・ゲーミング法の規制の状況について記載しております。

ドイツ・ゲーミング法の改正により、2017年前後にAWP機を中心にドイツ国内でのゲーミングマーケットは影響を受けるものと予測されております。

遊技場向機器

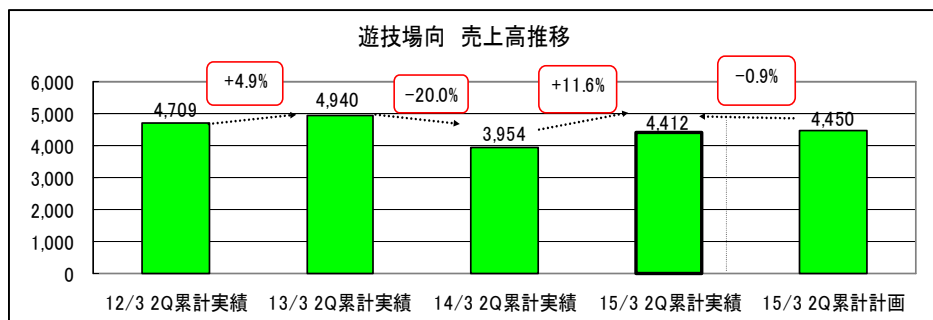
第2四半期累計 業績推移

単位:百万円 

	2013/3 2Q	2014/3 2Q	2015/3 2Q	2015/3 2Q	増 減	
	累計実績	累計実績	累計実績	累計計画	前年同期比	計画比
売上高	4,940	3,954	4,412	4,450	+11.6%	-0.9%
					+458	-38

【概要】

上半期においては、研磨性能を向上させた補給装置の販売が進み、計画達成。
しかし、消費増税の影響や、関連法規の改正によって、業界全体の先行きの不透明感が顕在化しており、周辺機器への設備投資意欲の減退が顕著となっております。



10

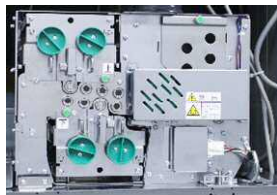
遊技場向機器事業では、
上半期は、研磨性能を向上させた補給装置の販売が進み、計画達成となりました。

しかしながら、消費増税の影響や、関連法規の改正によって、業界全体の先行きの不透明感が顕在化しており、設備投資意欲が減退しております。

集客力の維持のために定期的に行われる営業台（パチンコ機本体）の更新とは異なり、周辺機器においては、その傾向が顕著となっております。

今後とも、他社と差別化できる製品の上市や、一層の高性能化などによって、売上高を維持拡大していくように努めてまいります。

◇新製品情報

研磨システム
MP-2600湿式の特特殊ローラーに
よる研磨システムメダル自動補給回収システム
SR-7000

内部

新型湿式メダル
研磨機を搭載

◇『回胴式遊技機における型式試験の運用の変更等』に関して

8月28日に警察庁より、パチスロ遊技機の型式試験方法を9月16日以降に持ち込まれた機種から変更するとの通達があり、既に適用されている。
この変更により、これまで主流であった機種は検定通過が困難となり、今下期、来上期に発表予定であった機種は仕様変更が必要となりました。

当事業のトピックスとして、さきほど売上の好調要因として挙げました研磨技術を改良した自動補給設備について触れたいと思います。

当分野のメダル補給・回収システムでは、ホール様のニーズに合わせて、常に最適な製品を市場に投入し、実績を挙げてまいりました。

今回、独自の洗浄液を使用した湿式の特特殊ローラーでの研磨システムを採用した新製品を搭載いたしました。

その他のトピックスとして、業界で話題になっております「パチスロ遊技機の型式試験方法の変更」を挙げております。

本件による当事業への影響に関しては、不透明な状況であり、引き続きその動向に注視していきたいと考えております。

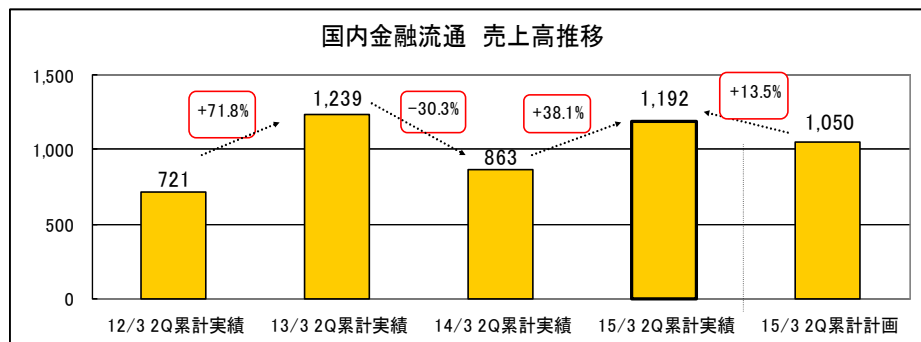
国内金融流通 第2四半期累計業績推移

単位:百万円 

	2013/3 2Q 累計実績	2014/3 2Q 累計実績	2015/3 2Q 累計実績	2015/3 2Q 累計計画	増 減	
					前年同期比	計画比
売上高	1,239	863	1,192	1,050	+38.1%	+13.5%
					+329	+142

【概要】

コンビニATM向筐体のOEM先での生産再開や前期に品質向上に注力していた釣銭機も好調に推移し、またバス料金箱向やタクシー会社向納金機といった案件も加わり、前年同期、計画に対して2ケタの伸長



12

国内の金融流通事業は、前期に品質問題やOEM先での生産調整により、低調であった釣銭機やコンビニATM向ユニットの販売が順調に推移し、またバスの料金箱向ユニットやタクシー会社向納金機のリプレース案件が加わったこともあり、前年同期比、計画比では2ケタの伸長となりました。

2015年3月期第2四半期累計 セグメント別業績

単位:百万円 

		14/3 2Q 累計実績	15/3 2Q 累計計画	15/3 2Q 累計実績	前年同期比 増減	計画比 増減
		15/3 2Q実績				
I. 日本地域	売上高	4,817	5,500	5,605	788	105
	経常利益	260	890	1,295	1,035	405
日本金銭機械 <small>(本社機能・ものづくり国内)</small>	売上高	—	—	—	—	—
	経常利益	436	800	1,263	827	463
国内金融流通	売上高	863	1,050	1,192	329	142
	経常利益	42	50	96	54	46
遊技場向機器	売上高	3,954	4,450	4,412	458	△ 38
	経常利益	△ 72	35	△ 14	58	△ 49
II. 北米地域	売上高	5,134	5,000	4,120	△ 1,014	△ 880
	経常利益	394	120	△ 182	△ 576	△ 302
III. 欧州地域	売上高	3,915	3,500	3,598	△ 317	98
	経常利益	587	345	505	△ 82	160
IV. アジア地域 <small>(ものづくり海外)</small>	売上高	128	—	—	△ 128	—
	経常利益	155	130	132	△ 23	2
調整	経常利益	△ 294	△ 585	△ 693	△ 399	△ 108
連結	売上高	13,996	14,000	13,324	△ 672	△ 676
	経常利益	1,102	900	1,057	△ 45	157
海外売上高		65.6% 9,177	60.7% 8,500	57.9% 7,719	-7.7% △ 1,458	-2.8% △ 781

・為替差益 +384
・子会社からの受配 +830

・買収関連費用184

上半期のセグメント別の業績を表示しております。
進行年度より、皆様によりご理解をしていただきやすい
ように、セグメント別の表示につきましては、左記のように
変更しております。

2015年3月期 連結業績予想 (計画比:FL収益取込前)

単位:百万円 

	2015/3 計画			2015/3 予想			通期 計画比	
	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期見込	通期	率	増減額
売上高	14,000	14,500	28,500	13,324	13,176	26,500	-7.0%	-2,000
北米地域	5,000	5,200	10,200	4,120	4,380	8,500	-16.7%	-1,700
欧州地域	3,500	3,200	6,700	3,598	3,202	6,800	+1.5%	100
遊技場向機器	4,450	4,950	9,400	4,412	4,588	9,000	-4.3%	-400
国内金融流通	1,050	1,150	2,200	1,192	1,008	2,200	-	0
営業利益 (営業利益率)	900 (6.4%)	1,200 (8.3%)	2,100 (7.4%)	723 (5.4%)	527 (4.0%)	1,250 (4.7%)	-40.4%	-850 (-2.7%)
経常利益 (経常利益率)	900 (6.4%)	1,300 (9.0%)	2,200 (7.7%)	1,057 (7.9%)	693 (5.3%)	1,750 (6.6%)	-20.5%	-450 (-1.1%)

平均為替レート

米ドル	103.00円	102.22円	108.00円	104.45円	+1.45円
ユーロ	140.00円	139.84円	136.00円	138.36円	-1.64円

買収関連費用 (上記損益内数)

DD費用、借入金 利息[営業外]	-	-	-	△184	-	△184	△184
---------------------	---	---	---	------	---	------	------

14

後ほどFL買収案件を含めての進行年度の業績予想をまとめておりますが、左記は、FL社収益取り込み前での計画との比較をしたものです。

北米ゲーミング市場において、カジノホールの新設が減少し、紙幣識別機ユニットの受注が減少していることに加え、期初にあった寒波の影響もあり、カジノホールの設備投資意欲が当初の想定以上に慎重になっております。

また、国内の遊技場向機器事業においては、遊技機の規則改正に伴う影響が想定されることから、周辺設備機器需要は不透明な状況であります。

また、収益面では、欧州での利益率の改善が見られる一方で、北米事業、国内事業での減収要因に加えて、競争激化による販売価格の低下などを想定しており、当初計画を下回る見込みとなりました。

2015年3月期 連結業績予想（前年同期比:FL収益取込前）

単位:百万円 

	2014/3 実績			2015/3 予想			通期 前期比	
	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期見込	通期	率	増減額
売上高	13,996	13,809	27,806	13,324	13,176	26,500	-4.7%	-1,306
北米地域	5,134	5,066	10,200	4,120	4,380	8,500	-16.7%	-1,700
欧州地域	3,915	2,829	6,744	3,598	3,202	6,800	+0.8%	56
遊技場向機器	3,954	4,664	8,618	4,412	4,588	9,000	+4.4%	382
国内金融流通	863	1,074	1,937	1,192	1,008	2,200	+13.6%	263
アジア地域	128	176	304	—	—	—	—	-304
営業利益 (営業利益率)	981 (7.0%)	780 (5.6%)	1,761 (6.3%)	723 (5.4%)	527 (4.0%)	1,250 (4.7%)	-29.0%	-511 (-1.6%)
経常利益 (経常利益率)	1,102 (7.9%)	1,012 (7.3%)	2,114 (7.6%)	1,057 (7.9%)	693 (5.3%)	1,750 (6.6%)	-17.2%	-364 (-1.0%)

平均為替レート

米ドル	95.90円	100.24円	98.00円	102.22円	108.00円	104.45円	+6.45円
ユーロ	125.80円	137.75円	130.55円	139.84円	136.00円	138.36円	+7.81円

買収関連費用（上記損益内数）

DD費用、借入金 利息〔営業外〕	—	—	—	△184	—	△184	△184
---------------------	---	---	---	------	---	------	------

15

15ページは、FL社収益取り込み前での前期実績との比較です。

2015年3月期 連結業績予想 《北米地域売上高》



(上段:千米\$, 下段:百万円)

	2014/3 実績	2015/3 予想	前期比	2015/3 計画	計画比
北米地域	104,085 10,200	81,400 8,500	-22,685 -1,700	99,000 10,200	-17,600 -1,700
(内訳)					
北米・中南米	95,471 9,356	69,750 7,285	-25,721 -2,071	83,750 8,630	-14,000 -1,345
アジア・オセアニア	8,614 844	11,650 1,215	+ 3,036 + 371	15,250 1,570	-3,600 -355
(内数)					
テーブルゲーム向	— —	0 0	0 0	2,250 230	-2,250 -230
インド・ビジネス	— —	0 0	0 0	2,000 205	-2,000 -205

【北米・中南米 差異】

(百万円) ◇前期比 OEM向 △12、カジノ向 △1、金融OEM向 △11
◇計画比 OEM向 △ 8、カジノ向 △1、金融OEM向 △ 7

16

前期比、計画比で大幅に減収となった北米地域の売上の内訳について表示しております。

弊社のセグメント表記は、販売を統轄している会社のある地域での表示となっており、特に、成長を遂げているアジア・ゲーミング市場向けの売上も、北米の子会社が販売しているため、この地域に含まれております。

今回、よりご理解いただきやすいように、資料のように、北米地域の売上高を「北米・中南米」と「アジア・オセアニア」に区分し、またそれぞれの区分での主な増減内容についても記載しております。

成長戦略の実現に向けて：アジア・ゲーミング市場



2014年度：カジノでの実稼動～売上・収益計上スタートの年を目指す
(第1ステップとして、マカオ、シンガポール、豪)

(百万円)

	2015/3 計画	2015/3 予想	2016/3 中期計画
テーブルゲーム向識別機	500台 230	0台 0	2,000台 1,175



		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
バックヤードテスト	豪												
	シンガポール												
審査委員会の審査・承認	豪												
	シンガポール												
フロアテスト	豪												
	シンガポール												
販売開始(期初計画)	豪												
	シンガポール												
	マカオ												

■ 計画

■ 実施

■ 見込

※1Qは1～3月

17

中期計画における重点施策の進捗状況について、触れたいと思います。まず、「テーブルゲーム向識別機」について、ご説明いたします。本製品は、テーブルが盛んなアジアのカジノ向けに、現金処理の自動化を目指した新たな製品であります。

主なターゲットを、マカオ、シンガポール、オーストラリアと定め、中でも、アジア最大の市場である、マカオでの本格導入に向けて、精力的な活動を続けております。

新たなシステムであるため、当局の許認可が慎重であったことなどから、導入に向けたスケジュールは、当初計画よりも遅れ気味となっております。また、マカオ市場でテーブルゲームのテーブルサイズのコンパクト化への対応という新たなニーズが生じております。

これは、従来ワンテーブル8人掛けが主流であったものが、今後は5人掛けになるというもので、現在マカオでは急速にその更新が進んでおります。

実際に、8人満席でゲームが行われることは稀であり、実態に合わせた変更であるとともに、同じフロア面積では、テーブル設置数が増加するため、カジノの増収策の一環であるともいえます。

これにより、当社の製品にもサイズ変更などが必要となりますが、需要そのものは、顕在でありディーラーの人員不足への対応や、処理のスピードアップに資するものとして、変わりはありません。

市場には競合品も存在しないため、カジノからの要望、カジノオペレーターとの共同作業での製品改良を早急を実施し、次の収益の柱とすべく、引き続き取り組んでまいります。

成長戦略の実現に向けて: アジア 金融・交通・流通市場



2014年度 : インド市場の新規開拓

(百万円)

	2015/3 計画	2015/3 予想	2016/3 中期計画
インド市場 計	205	0	360
交通	50	0	200
金融	155	0	160

◇交通 ~ 鉄道券売機	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ラボテスト												
入札~落札					入札	落札	入札	落札				
フィールドテスト												
販売開始 (期初計画)												
◇金融 ~ ATM												
ラボテスト												
メーカー採用												
BKでのトライアル												
販売開始 (期初計画)												

計画
 実施・決定
 見込

※1Qは1~3月

18

「アジア 金融・流通・交通市場」の状況について、ご説明いたします。

進行年度では、特にインド市場の開拓に取り組んでまいりました。政治的な要因による日程の遅れなどがありましたが、成約に向けて順調に進行しているものと考えております。

まず、鉄道券売機向ビジネスは、当初、入札は2月に始まる予定でしたが、総選挙の関係で8月中旬に延びたことから、当初6月と予定されていた落札も11月中旬に延期されております。

本日時点では、まだ決定しておりませんが、受注できた場合には年末、もしくは年明けから納入がスタートする予定であります。

また金融分野でも、キャッシュ・デポジット機への採用が決定し、完成品メーカーのATMが、実際の店舗で7月末からトライアルを開始しております。

これ以外の用途としては、納金機への採用が決定し、こちらは年末、もしくは年明けから納入がスタートする予定であります。

Future Logic社の買収による 損益インパクトについて

8月29日に100%持分の取得が完了いたしました
「フューチャーロジック社」の件について、ご説明いたします。

フューチャーロジック社の概要



- ◇本社所在地 米国カリフォルニア州グレンデール
- ◇設立 1983年
- ◇従業員数 110名(2013年度末時点)
- ◇事業概要 欧州、北米、アジアパシフィックにおけるOEMサーマルプリンター市場に対する電気アSEMBル・ソリューションに係るデザイン設計、製造、販売
- ◇主要顧客 ゲーミング、コインパーキング、POSシステム、医療、農業関連の企業

カジノ



キオスク



医療



投票



ガソリンスタンド



- ◇拠点 生産拠点(米国アリゾナ州、中国広東省)、販売拠点(ロンドン、マカオ、豪)

FL社の概要について、ご説明いたします。

同社はその子会社6社と合わせて、ゲーミング市場向けプリンター・ユニットの主要な供給元として、世界のゲーミング業界を代表するトップの企業であります。

主要な顧客としては、ゲーミングマシンメーカーの他、コインパーキングやATM、POSシステムといったキオスク、医療、投票用機器、ガソリンスタンドに関連するさまざまな企業が挙げられます。

FL社の主要事業 ~ゲーミング市場におけるプリンターとは?



識別機・プリンターユニット搭載の様子

Thermal Printer



Gen3



Bill Validator



21

FL社の主要な取り扱い製品であるゲーミング市場向けプリンター・ユニットの機能について、ご説明いたします。

現在、ゲーミング市場では紙幣識別機とプリンターユニットをセットで搭載し、都度紙幣を介在せずにプレイできるチケット・イン・チケット・アウトシステムが主流になっております。

ご理解いただきやすいように、資料にはスケルトンのスロットマシンの模型に弊社の紙幣識別機がどのように設置されているかを示しておりますが、ご覧のようにスロットマシンに向かって右下の部分に紙幣識別機が、また写真では内蔵はされておりましたが、左下にプリンター・ユニットが内蔵されており、中央下の写真のような紙幣大のレシートがアウトプットされます。

プリンターが印刷するチケットは、プレイヤーがそのスロットマシンの使用をやめて、残額を引き出す時に使用されます。つまり個々のスロットマシンからの、残額の引き出しは現金ではなく、チケットで行われます。

弊社の紙幣識別機は、紙幣だけではなくチケットもまた現金同等物として受け取る機能があるため、プレイヤーはスロットマシンの間を自由に移動することが出来ます。

そして、プレイヤーがその日の最後にカジノを去る時に、精算機でチケットを現金に換金する仕組みとなっています。

FL社の強み

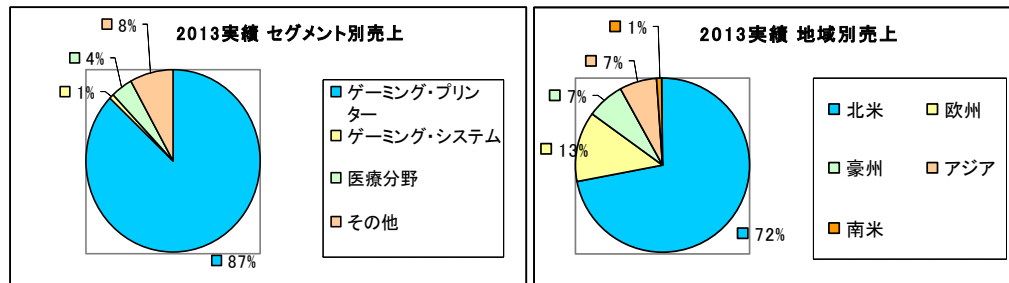


同社はゲーミング業界でのチケット・プリンター及びクーポン発券ソリューションでのリーディング・カンパニーである。

- ◇マーケットシェア 北米では65%超、北米以外のグローバルマーケットで70%超
- ◇ライセンス 90数ヶ国で当局の認可を得ている

◇FL社 売上高推移 (千米\$)

	2011年度	2012年度	2013年度
売上高	43,959	43,095	47,210
営業利益	8,322	4,262	8,495



22

FL社の強みについて、ご説明いたします。

同社は、過去15年超にわたって、ゲーミング業界でのプリンターのマーケットシェアNO.1の地位を占めている、チケット・プリンター及びクーポン発券ソリューションのリーディング・カンパニーであります。

具体的な数字で申しますと、北米でのマーケットシェアは65%超、北米以外のグローバルでは70%超と競合他社合計を上回る圧倒的なシェアを誇っており、また約160万台以上の出荷実績があります。

2013年度の実績で見ますと、売上高は47百万\$ (約46億円)で、事業セグメントとしては、ゲーミング向が約90%を占めております。

また、地域別では、北米が72%、欧州が13%、豪州とアジアが7%ずつとなっております。

主要製品のラインアップ



プリンター



GEN2
Universal
TITO & Coupon Printer



GEN3
EVOLUTION
TITO & Coupon Printer

感熱紙の収納容量と印刷スピードが格段に向上した新製品「GEN3」の開発完了。「GEN2」からのリプレース需要に期待

システム



Ticket2Go
Networkless Ticket Pay Out
Solution for AWP

欧州AWP市場向新製品
～未開拓市場開拓に期待



TableXchange
TITO & Couponing for Table Games

テーブルゲーム向新製品
～識別機とのセット販売に期待



PromoNet
PROMOTIONAL COUPONING
Solution for Gaming

プロモーション・クーポン発券システム
～DNAとの連携に期待

23

FL社の製品のラインナップをご紹介します。
現在の主要な商材は、左上の「GEN2」（ジェン・ツー）というプリンターですが、感熱紙の収納容量と印刷スピードが格段に向上した新製品（ジェン・スリー）の開発が完了しておりますので、今後のリプレース・ビジネスに期待がもてます。

また、今後業績への貢献が期待できる複数のシステムも既に完成しております。

左側から順番にご説明いたしますと、

「Ticket2Go（チケットツーゴー）」は、今まで販売できていなかった欧州AWP向の製品であり、未開拓であった市場での導入に期待がもてます。

中央の「TableXchange（テーブルエクステンジ）」は、テーブルゲーム向のプリンターで、単体、もしくは紙幣識別機とのセット展開に期待しております。

3つめの「PromoNet（プロモネット）」は、プロモーションやクーポンチケットの発券システムであり、7ページでご説明させていただきました「DNAシステム」との連携に期待しております。

本件買収により期待されるシナジー効果



- ◇現金取引マネジメント及びチケットプリンターにおいて、グローバルベースでのサービスとサポートの提供が可能になる。
- ◇同社がこれまでにゲーミング業界で培ってきた技術と実績に基づく新規のシステム・テクノロジーの製品化にも取り組んでいることから、両社の技術力の融合により、将来的にさらに高機能なシステムの開発も可能になる
- ◇両社の顧客ルートを活用したクロスセル機会の増加
- ◇FL社の各拠点と重複しており、集約によるコスト削減が可能
- ◇テーブルゲーム向のTITOシステムの年内での製品化に向けての取り組みを進めており、新規用途として、そして弊社のテーブルゲーム向識別機とのコラボにも大いに期待
- ◇流通・交通市場への展開

24

今回の買収により、当社グループは、スロットマシンの主要機器である紙幣識別機ユニットとプリンターユニットというそれぞれトップシェアのビジネスを持つこととなります。

本件の買収により、期待されるシナジーとしては、これら双方のラインアップを整えることで、ゲーミング市場における総合コンポーネント・サプライヤーとしての地位を確立し、グローバルベースでのサービスとサポートの提供が可能になります。

これにより、顧客基盤の拡大に伴う全世界でのシェアアップが期待でき、連結業績の向上に寄与するものと考えております。

さらに、両社の技術力の融合により、23ページでご説明させていただきましたような将来的に高機能なシステムの開発も可能になるものと考えております。

また一方では、同社の拠点が弊社グループの拠点と重複していることなどもあり、買収後数年以内での集約によるコスト・シナジーが期待できるものと考えております。

本件買収による損益インパクト



- ◇ 進行年度の連結業績への取り込みは、9～12月の4ヶ月分（3Q以降）
- ◇ 買収に伴うのれんの償却年数については、現在、監査中で未了
- ◇ 買い取り価格70.6百万ドル（約73億円）のうち、55億円を金融機関からの借入、残りが自己資金。進行年度は、借入利息 45百万円程度の減益要因
- ◇ 現時点での試算では、本件取得の投資回収期間は、約7年を見込む。
（FCFベース）

25

本件買収による損益へのインパクトについて触れたいと思います。

本件買収による進行年度の連結業績への影響につきましては、9～12月までの4ヶ月分で、連結決算上では第3四半期からの取り込みとなります。

買収に伴うのれんの償却年数については、現在、監査中であり、未了でございます。

また、本件買収に係る買取資金のうち、55億円を金融機関からの借入としたことによる借入金利息が進行年度では45百万円程度の減益要因になる見込みであります。

買収関連費用など、進行年度に一括で費用処理しているものもあり、トータルで見た場合、進行年度につきましては、若干の減益要因になるものと考えております。

尚、現時点での試算では、本件買収の投資回収期間は、キャッシュフローベースで約7年を見込んでおります。

2015年3月期 連結業績予想 (FL収益取込後)

単位:百万円 

	2014/3 実績			2015/3 予想						通期 前期比	
	上半期	下半期	通期	上半期		下半期		通期		率	増減額
				従来ベース	FL(内数)	従来ベース	FL(外数)	連結合計	FL(内数)		
売上高	13,996	13,809	27,806	13,324	—	13,176	1,400	27,900	1,400	+ 0.3%	94
北米地域	5,134	5,066	10,200	4,120		4,380	1,400	9,900	1,400	- 2.9%	-300
欧州地域	3,915	2,829	6,744	3,598		3,202		6,800		+ 0.8%	56
遊技場向機器	3,954	4,664	8,618	4,412		4,588		9,000		+ 4.4%	382
国内金融流通	863	1,074	1,937	1,192		1,008		2,200		+13.6%	263
アジア地域	128	176	304	—		—		—		—	-304
営業利益 (営業利益率)	981 (7.0%)	780 (5.6%)	1,761 (6.3%)	723 (5.4%)		527 (4.0%)	50 (3.6%)	1,300 (4.7%)	50	-26.2%	-461 (-1.6%)
経常利益 (経常利益率)	1,102 (7.9%)	1,012 (7.3%)	2,114 (7.6%)	1,057 (7.9%)	△ 184 (左記内数)	693 (5.3%)	0	1,750 (6.3%)	△ 185	-17.2%	-364 (-1.3%)
当期純利益 (当期純利益率)	671 (4.8%)	747 (5.4%)	1,418 (5.1%)	760 (5.7%)		590 (4.5%)		1,350 (4.8%)	△ 150	- 4.8%	-68 (-0.3%)

平均為替レート

	95.90円	100.24円	98.00円	102.22円	108.00円	104.45円	+ 6.45 円
米ドル							
ユーロ	125.80円	137.75円	130.55円	139.84円	136.00円	138.36円	+ 7.81 円

26

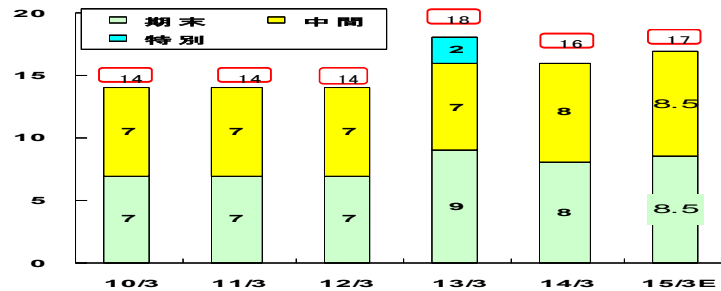
15ページでご説明いたしました従来ベースでの連結業績予想にFL社買収による損益4ヶ月分を加えた進行年度の通期予想値は資料のようになります。

尚、買収によって得られるシナジー効果などを取り込んだ次年度以降の計画については、現在策定作業を進めており、当社全体の中期経営計画の見直しを含め、来年1月中旬にはお示しできるものと考えております。

利益還元



配当の推移



1株当たり利益推移(円)	-34.4	24.7	28.9	53.1	52.6	50.0
配当性向推移(%)	—	56.7	48.5	33.9	30.4	34.0
純資産配当率(%)	1.6	1.7	1.7	2.1	1.7	1.7

《利益還元基本方針》

成長戦略を通じた利益拡大による「1株当たり利益」の増加に応じた増配の実現に取り組む。
 ・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上を目指す

進行年度の配当については、前期から1円増配し、中間8.5円、期末8.5円、合計で年間普通配当17円を予定しております。



日本金銭機械株式会社 <http://www.jcm-hq.co.jp>

お問合せ先 : 広報・IR室 仲谷 06-6703-8400

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいりますが、本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわないようお願いいたします。

北米のゲーミング市場をはじめとして、既存市場を取り巻く経営環境は厳しさを増しております。

そこで、中期経営計画に掲げて取り組んでまいりました「新興国や未開拓市場への積極展開」や「新たなビジネスの創出」といった成長戦略の実行と今回の買収案件とのシナジー効果を早期に実現できるように、尚一層、スピード感をもって取り組んでまいり所存であります。

尚、今回のご説明では、日本カジノについては触れておりませんが、お手元の資料の後段に全般的な現況のみを示しております。

また、各方面から注目を集めております日本カジノの状況については、報道によりますと今臨時国会での審議、可決成立の見込みは難しいようではありますが、引き続き、審議の動向などを見守っていきたいと思います。

《 参考資料 》

参考資料 **国内カジノトピックス** JCM GLOBE

日本経済新聞 7/26朝刊より抜粋
主なカジノの候補地

北海道
小樽や苫小牧、
釧路市が誘致
表明

仙台
仙台へ臨海部に
人工浮島「メガフ
ロード」も

東京
ホテルや会議
場がある台場
臨海地区が
候補

静岡
横浜市が整備に
向けた検討会を
4月に立ち上げ

中部
リゾート施設
「シーガイア」
周辺に誘致

沖縄
施設の構想に向
けて調査費を争
奪計上

北海道(小樽)

長崎(ハウステンボス)

大阪(夢洲)

幕張人工浮島園

東京(競合場)

山下埠頭

宮崎(シーガイア)

沖縄

大阪市の夢洲への鉄道延伸案(0.16乗換)

29

国内カジノに関して、ご紹介しておりますのは7月末に日経新聞の1面に掲載されていた記事でございます。

ご存知のように、現在開会されております臨時国会での「IR推進法案」の審議入りは不透明になってきております。

弊社の本社があります大阪はたびたび候補地として取り挙げられております。

大阪は、府と大阪市が候補地を臨海部にある人工島「夢洲」に絞込み、既に鉄道の整備計画もあがっております。

弊社は、国内にカジノが開設された場合に想定されるビジネス・チャンスを最大化するべく、4月にグループ内にプロジェクトチームを立ち上げ、検討をスタートさせております。

参考資料

近隣諸国のカジノ市場の状況



1. マカオ

2009年6月以来5年ぶりに前年同期比でマイナスとなった6月度以降5ヶ月連続でのマイナス成長になったこともあり、1～10月までの累計で、2.3%とかわらうじてプラスを維持。
市場の回復について一部では、新規カジノが開業する2015年下期になるとの見方もある。

◇マカオカジノ収益推移 (上段:億パタ、下段:前年同期比 増減率) ※1パタ≒14円

2014/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1-10累計
287.4	380.1	354.5	313.2	323.5	272.2	284.2	288.7	255.6	280.2	3,039.7
+7.4%	+40.3%	+13.1%	+10.6%	+9.3%	-3.8%	-3.6%	-6.1%	-11.7%	-23.2%	+2.3%

2. 韓国

パラダイスカジノとセガサミーの合弁企業であるパラダイスセガサミーは、仁川空港近くに、
又、ゲンティン・シンガポールは、済州島に、それぞれカジノリゾートを2017年にオープン予定

3. フィリピン

マニラ湾沿いの大規模な複合開発計画「エンターテイメント・シティ計画」で予定されていた4つの計画が進行中(内1件は、既に2013.3に開業済)、1つが年内にオープン予定

4. ロシア

マカオでメルコ・クラウンを運営するローレンス・ホー氏がウラジオストック近郊の「プリモリエ」カジノ特区で、年内にオープン予定

30

《 参考資料 》

近隣諸国のカジノ市場の近況は左記のとおりです。

マカオは6月度に5年振りに前年同期比でマイナスとなって以降、5ヶ月連続のマイナス成長となっております。要因としては、カジノ収入の3分の2を占めているVIP市場の収入が中国の中央政府の儉約運動の影響もあって大幅に減少し、また順調に右肩上がり続けてきたマス市場も減速感が出てきたことが挙げられております。

顧客の仲介業者であるジャンケットもマカオを避けて、豪州や米国、フィリピンなどへ誘導しているようで、ラスベガスでは今年の1～7月のカジノ収入が約4%伸びており、中国人が好むバカラの収入は14%程度伸びているようです。

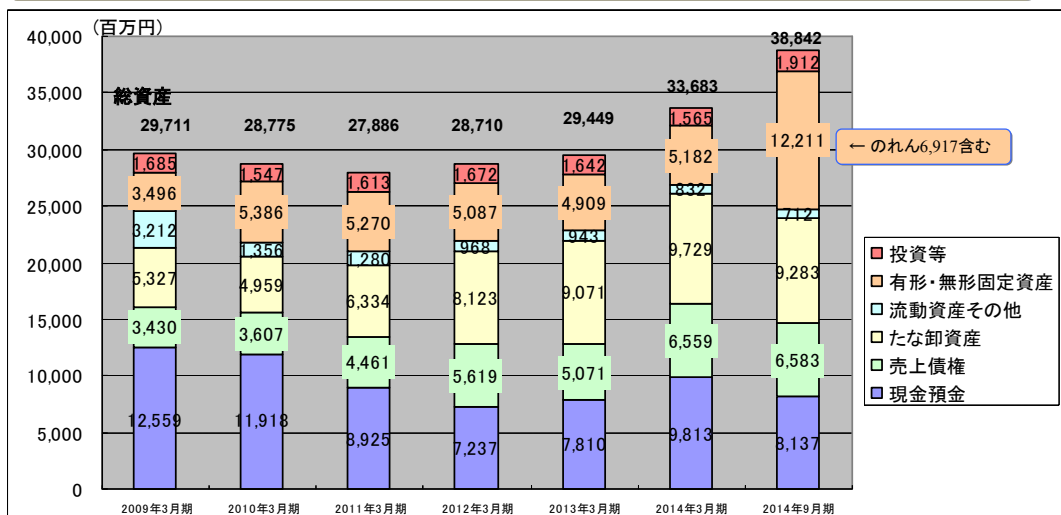
また、韓国、フィリピン、ロシアでは左記のようなカジノプロジェクトが進行中であります。

参考資料

貸借対照表



資産の部：FL社買収により、のれん69億円含めて80億円の増加



期末日レート

米ドル	98.22	93.04	83.15	82.19	94.06	102.91	109.45
ユーロ	129.85	124.95	117.57	109.81	120.77	141.60	138.84

《 参考資料 》

2014年9月末時点の資産合計は、前期末と比較して、51億59百万円増加し、388億42百万円となりました。

その要因としては、FL社の全持分の取得により、「現預金」が減少した一方で、「のれん」を69億円計上したことなどが挙げられます。

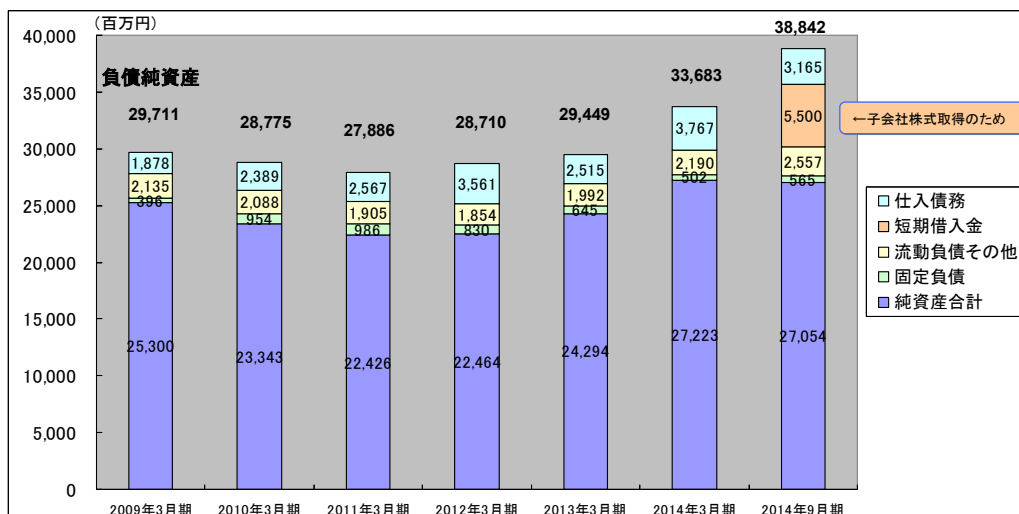
尚、FL社買収により、「のれん」を含めて80億14百万円の増加となっております。

参考資料

貸借対照表



負債・純資産の部：子会社株式取得のため、55億円の借入実行



自己資本比率(%) 85.2 81.1 80.4 78.2 82.5 80.8 69.7

《 参考資料 》

2014年9月末時点の負債合計は、前期末と比較して、53億28百万円増加して、117億88百万円となりました。

主な内容は、FL社の持分取得に充当するための借入金55億円の増加であります。

純資産合計は、前期末に比べて1億68百万円減少して、270億54百万円となりました。

主な内容としては、

- ・利益剰余金の増加 6億52百万円
- ・為替換算調整勘定の減少 8億70百万円

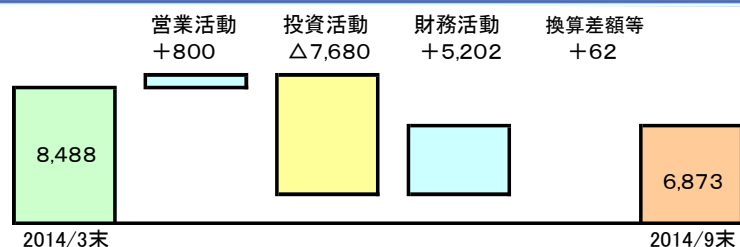
であります。

尚、自己資本比率は借入金の増加により、69.7%となりました。

参考資料

キャッシュ・フロー

単位:百万円 



	2013/3	2014/3	2014/9
営業活動によるCF	+ 918	+ 2,098	+ 800
税金等調整前当期純利益	1,863	2,132	1,041
減価償却費	563	506	276
売上債権の増減額(Δは増加)	879	Δ 729	180
棚卸資産の増減額(Δは増加)	Δ 335	611	903
仕入債務の増減額(Δは減少)	Δ 1,357	580	Δ 863
投資活動によるCF	Δ 166	Δ 545	Δ 7,680
有形固定資産の取得による支出	Δ 285	Δ 503	Δ 251
子会社株式取得による支出	-	-	Δ 7,461
財務活動によるCF	Δ 537	Δ 626	+ 5,202
短期借入金による収入	-	-	5,500
配当金の支払額	Δ 374	Δ 511	Δ 215
換算差額等	259	579	+ 62
現金の増減	473	1,506	Δ 1,615
(中間)期末残高	6,982	8,488	6,873

33

《 参考資料 》

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少8億63百万円、法人税等の支払額2億16百万円などの支出がありましたが、税金等調整前利益10億41百万円、たな卸資産の減少9億3百万円などにより、8億円の収入となりました。

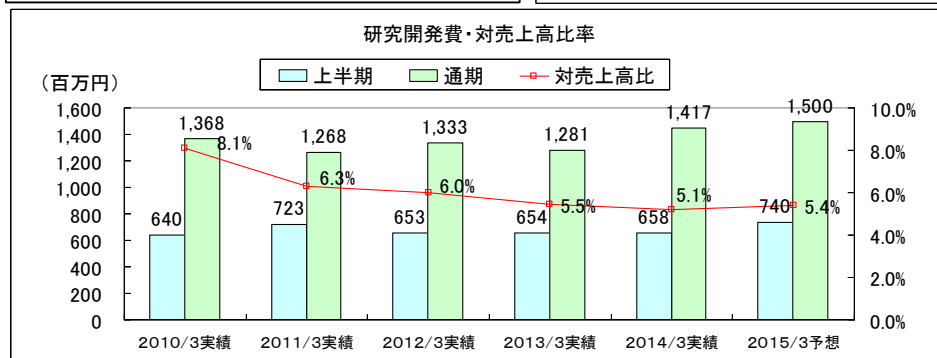
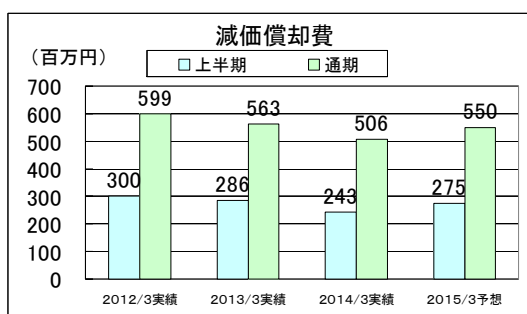
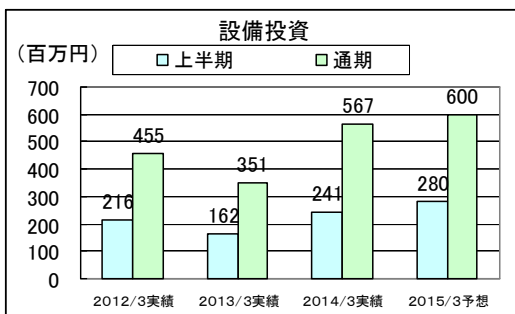
投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社株式の取得による74億61百万円により、76億80百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入55億円により、52億2百万円の収入となりました。

更に、現金及び現金同等物に係る換算差額62百万円の増加を加え、「現金及び現金同等物」は前期末に比べて、16億15百万円減少の68億73百万円となりました。

参考資料

設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移



34

《 参考資料 》

今上半期の主な設備投資としては、製造用金型、アミューズメント事業用のゲーム機、開発用器具等 が挙げられます。

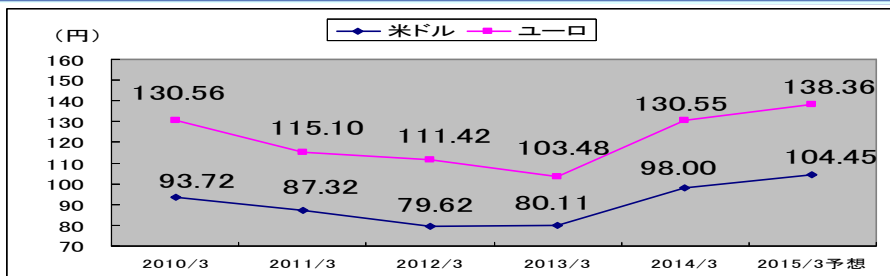
研究開発活動については、当社グループでは「成果は顧客のために」をスローガンに、社会情勢や顧客ニーズの多様化に迅速に対応した市場性の高い製品の創出を目指して展開しております。

また、潜在する新たな市場・可能性を開拓するため、各種商品の要素技術の開発に努めると共に、製品開発力そのものの向上にも取り組んでおります。

今上半期は、国内外の金融流通交通市場向け製品を中心に活動を進めました。

参考資料

平均為替レートの推移



1円当たりの営業利益への影響額 (百万円)

米ドル	33	0	9	18	11 (プラス)
ユーロ	18	2	6	7	6 (プラス)

《 進行年度における為替レートの想定 》

(円)

◇期中平均レート

	期初計画	上半期実績	下半期想定	通期予想
米ドル	103.00	102.22	108.00	104.45
ユーロ	140.00	139.84	136.00	138.36

◇期末日レート

	前期末	期初計画 (上半期末、期末)	上半期末実績	期末想定
米ドル	102.91	103.00	109.45	110.00
ユーロ	141.60	140.00	138.84	140.00

35

《 参考資料 》

当社グループでは、グループ内の海外取引に係る商流変更の実施により、為替影響を低減させる取り組みを実施してきたこともあり、為替感応度としては、左記に記載しておりますように以前と比べて大きく低減できるようになっております。

進行年度につきましては、
期初計画時点では、米ドル 103円、ユーロ 140円 として
おりましたが、

上半期の実績は、米ドル 102.22円、ユーロ 139.84円
下半期は、米ドル 108円、ユーロ 136円 で想定しており、
通期業績予想の前提とする平均為替レートは、

米ドル 104.45円 、 ユーロ 138.36円

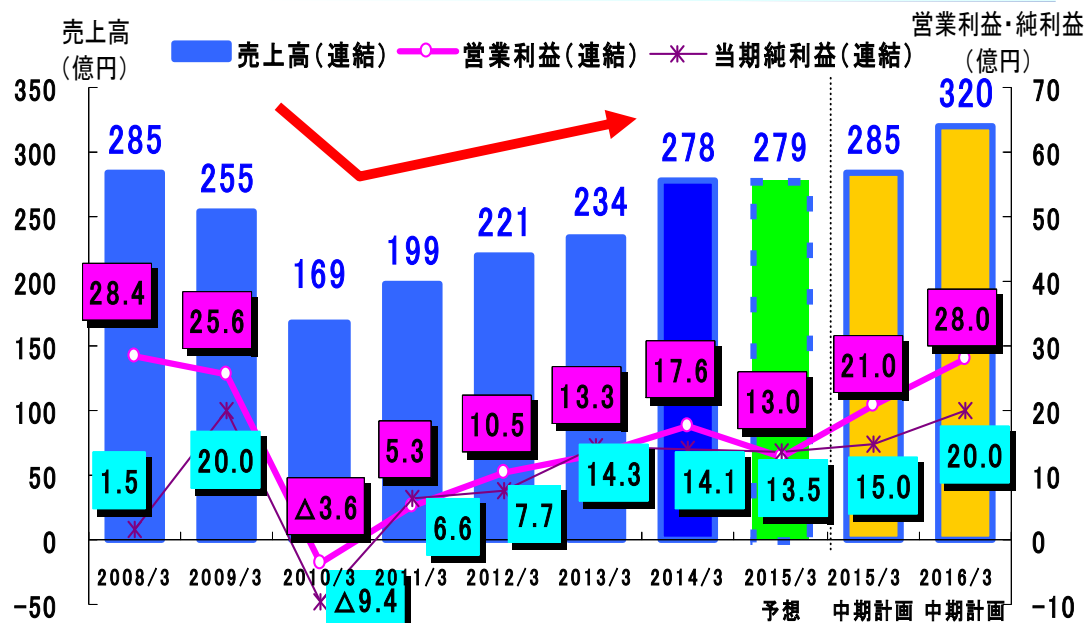
としております。

また、期末日レートに関しても、期初計画時点では、
米ドル 103円、ユーロ 140円 としておりましたが、
上半期末には米ドルが109.45円と大幅に円安に進行した
ことで、外貨建資産の時価評価による為替差益が
4億53百万円計上されました。

期末は、米ドル 110円、ユーロ 140円 と想定し、
為替差益は30百万円程度の見込みとしております。

参考資料

連結業績推移&中経ローリングプラン



36

《 参考資料 》

中期経営計画につきましては、今年の2月にローリングプランを策定いたしました。FL社の買収を受けて、事業環境や為替などの前提条件の変化、また重点施策の進捗状況などを踏まえて、来年1月中旬を目処として2016年度までの見直しを進めております。